

水害で被災した漆工品の応急処置（初期対応）について

東京文化財研究所 山下好彦（2011.5.16.）

・水害で被災し、素地に水分や塩分を含んだ漆工品でもっとも問題になるのは急激な乾燥で素地が変形することである。素地の変形によって下地や塗膜だけでなく加飾にまで甚大な影響を与える。

漆工品の素地は木、竹、紙、皮、金属や陶磁器などがあるが、木地が最も一般的である。木地を素地に用いる技法は挽物、指物、曲物や刳物があり、板を組み合わせた指物は素地接合部に水分が侵入することにより接合部が外れて木地が乾燥する段階で木地が変形して各部がばらばらになることが予想できる。

・次に問題になるのは水害によって漆工品の表面に泥が厚く付着した場合で、泥をそのまま乾燥させた場合は泥の収縮によって漆工品の表面にある加飾が泥と一緒に剥落することが考えられる。

漆工品に用いる接着材料は漆だけでなく、膠、糊や柿渋が用いられる。膠が用いられた下地部分に水が浸入すると崩れやすくなり、螺鈿などは剥離を起こしやすい。

以上のような傷みを極力抑制するには、以下のような工程に従って初期対応を行う。初期対応は被災した現場および仮設保管先での簡易作業とし、その後の保存処置は含まない。保存処置は修理技術者の指示のもと行われるのが望ましい。

被災した現場での処置

- (1) 状況を確認し、資料の下部を両手で包み込むように取り上げる。資料がばらばらになってしまっている場合は、同一物と思われる部材は取り上げた後に同一カ所に集める。
- (2) 厚く泥などが付着している場合は軍手を付けた手をつかって大まかに取り除く。桐箱や杉箱についた泥も同様に取り除く。
- (3) コンテナの内底に吸湿紙（キッチンペーパー）を敷く。急激な乾燥を防ぐために資料をナイロン紙で包み、上から吸水紙（キッチンペーパー）とポリエチレンシートを被せる。
- (4) 資料が大型の物は資料ごとにナイロン紙と吸水紙で包み、ポリエチレンの袋に入れてゴム等で密閉する。桐箱等に入っている資料は開梱せずにポリエチレンの袋に密閉する。

仮設保管先での処置—外箱がある場合

- (1) ポリエチレンの袋やシートから現場で密閉した資料を取り出す。
- (2) 外箱（桐箱や杉箱など）から資料を取り出した後、資料を包んでいた包裂は軽く水洗いして絞る。水にぬれた状態の仕覆は水洗いせずにゆっくり乾燥させるため、ナイロン紙で包んだ吸水紙（キッチンペーパーなど）を内側に詰め、外側も同様に包む。和紙はナイロン紙で包み、軽く折りたたんで保管する。
- (3) 外箱に付着した泥はシリコン等の柔らかい筥で削り落とした後に水で拭き取る。拭き取りには固く絞った綿布を用いる。
- (4) 資料をポリエステル紙と吸水紙で包んだ後、元の包裂に包み、箱の中に入れなおす。付属した仕覆や和紙は箱の外に添えておく。
- (5) 乾燥とカビを防ぐため脱酸素剤をいれたポリエチレンの袋に箱を入れて掃除機などを持ちいて空気を抜く。道具や材料のない場合はポリエチレンの袋に入れて出来るだけ空気を抜いた状態でゴムやテープを用いて密閉する。

仮設保管先での処置—外箱がない場合

- (1) ポリエチレンの袋やシートから現場で密閉した資料を取り出す。
- (2) 資料に付着した泥はシリコンなどの柔らかい筥を持ちいて泥の厚みが薄くなるまで掻き落とす。表面の剥離が著しい場合は泥を完全に落とさないようにする。
- (3) 刷毛（毛質のかたい油性の塗料刷毛など）を使って資料に付着した泥を出来る限り払う。
- (4) ばらばらになっていた資料はこの段階である程度同一物であるかどうか判断する
- (5) 資料ごとにポリエステル紙で包み、その上から霧吹きで軽く湿らせたキムワイプやキッチンシートで軽く包む。
- (6) 急激な乾燥とカビを防ぐため脱酸素剤をいれたポリエチレンの袋に入れて掃除機などを持ちいて空気を抜く。道具や材料のない場合はポリエチレンの袋に入れて出来るだけ空気を抜いた状態でゴムやテープを用いて密閉する。

仮設保管先での管理

- (1) 処置が済んだ資料はプラスチックのコンテナに入れて保管する。
- (2) 保管場所は直射日光や風通しの良い場所は避け、湿度が安定した気温が低い場所が望ましい。
- (3) コンテナを高く積み上げないようにする。
- (4) 保管は数か月程度を目安とし、その後は専門家の判断に任せる。

<必要な道具>

- ・ 軍手
- ・ ポリエチレンの袋およびシート
- ・ 脱酸素剤
- ・ 輪ゴムまたはテープ
- ・ シリコンやゴム製の籠（台所用品として市販）
- ・ 刷毛（刷毛に金属が使用してないもの）
- ・ ポリエステル紙
- ・ キムワイプまたはキッチンペーパー
- ・ 霧吹き
- ・ コンテナ各種
- ・ 掃除機

助言・指導（氏名順不同）

増村紀一郎（重要無形文化財保持者、東京芸術大学、日本文化財漆協会）

北村昭斎（重要無形文化財・選定保存技術『漆工品修理』保持者、日本文化財漆協会）

北野信彦（東京文化財研究所）

東京芸術大学工芸科漆研究室